

平成26年度工学部・工学研究科自己点検評価書

2015.7.14 教育企画会議資料

項 目	取組内容（成果、課題など）	根拠資料	工学部・工学研究科の取り組みを示すポーチ絵（公表用1枚）
基準4 学生の受入 4-1 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）が明確に定められ、それに沿って、適切な学生の受入が実施されていること。 4-2 実入学者数が入学定員と比較して適正な数となっていること。	- 入学者受入方針を工学部案内パンフレットやプレゼンテーション資料に組み入れた。 - 平成25年度の4学科への改組時に、前期日程と後期日程の募集人員割合を7:3から5:5へ変更した。平成26年度から個別試験に英語を導入した。その結果、志願者数は、前期はほぼ横ばい、後期は10%以上増加した。今後は、推薦、前期、後期それぞれの入学者の入学後の成績等追跡調査結果を踏まえた上で募集人員の再検討を行うこととした。 - 平成26年度の工学部入学者は、私費留学生2名を含めて3名が入学定員の1.1倍を超えたが、平成27年度は入学定員の1.03倍で適正な数である。 - 平成26、27年度の工学研究科の入学者数は、博士前期課程で入学定員の1.16倍で適正な数である。博士後期課程は26年度は入学定員の0.59倍で9名欠員であったが、27年度は秋季入学予定者でほぼ定員に近い数になる予定である。	- 志願者数、入学者数のグラフ（資料1、資料2） - 入試結果（資料1、資料2）	
基準5 教育内容及び方法 5-2 教育課程を展開するにふさわしい授業形態、学習指導法等が整備されていること。（学士課程） 5-5 教育課程を展開するにふさわしい授業形態、学習指導法等（研究・論文指導を含む。）が整備されていること。（大学院課程）	- デザイン思考ワークショップ形式の講義を開講した。「技術表現法：2年生全員必修」「Hack-U：Yahoo! JAPANの協力のもとアプリケーションを開発」 - 学部専属の英語教員を採用し、その教員による専門分野ごとに適した英語科目を実施した。 - 海外を含めたインターシップを積極的に推進させた。（学部生18名、大学院生102名） - グローバル化に向けて短期留学制度を充実させた。（短期留学22名）	- 時間割（資料3） - 技術表現法シラバス＋Hack-U記事（資料4） - インターシップ実績一覧（資料5） - 短期留学実績（資料6）	
基準6 学習成果 6-1 教育の目的や養成しようとする人材像に照らして、学生が身に付けるべき知識・技能・態度等について、学習成果が上がっていること。 6-2 卒業（修了）後の進路状況等から判断して、学習成果が上がっていること。	学習成果の向上に繋がる取組として、以下を実施した。 - すべての科目に授業評価アンケートを実施し、学生の学習時間、学習態度を把握。その集計結果をAIMSで開示した。 - 工学部卒業生の約60%が博士前期課程へ進学した。就職の求人倍率は学科毎に多少異なるが、学部と博士前期課程をあわせて約5～7倍前後で推移している。OB、OG等による求人活動が活発に行われ、社会が求める人材を輩出している。	- 授業評価アンケートの集計結果（資料7、資料8） - 進路と就職先（資料9）	
基準8 教育の内部質保証システム 8-1 教育の状況について点検・評価し、その結果に基づいて教育の質の改善・向上を図るための体制が整備され、機能していること。 8-2 教員、教育支援者及び教育補助者に対する研修等、教育の質の改善・向上を図るための取組が適切に行われ、機能していること。	教育の質の改善に繋がる取組として、以下を実施した。 - リフレクションペーパーを教務委員会で開示し、全教員が授業改善の工夫を共有した。 - 卒業（修了）時の置き手紙から、在学時に感じた学生の意見・提案を把握し、質の改善・向上を図っている。 11月12日と12月10日にアクティブラーニングに関するFDを実施、11月26日に教学企画室主催のFD開催（全学）	- リフレクションペーパー（資料10） - 置き手紙の集計結果（資料11、資料12） - FD研修会一覧（資料13）	

工学部・工学研究科の取り組み

2015.7.14
教学企画会議資料



入学試験専門委員会

教授会・研究科委員会

入試委員会

教務委員会

- 志願者推移
- 入試結果分析
- 入学定員の検討

- シラバス
- 時間割
- 授業評価アンケート
- リフレクションペーパー
- 置き手紙
- FD研修会
- インターンシップ
- 留学補助

AIMSで開示

教育推進・学生支援機構
(学生受入部門)

教学IRデータセット

学生の受入

教育内容・方法等

